

邦 樂 現 代

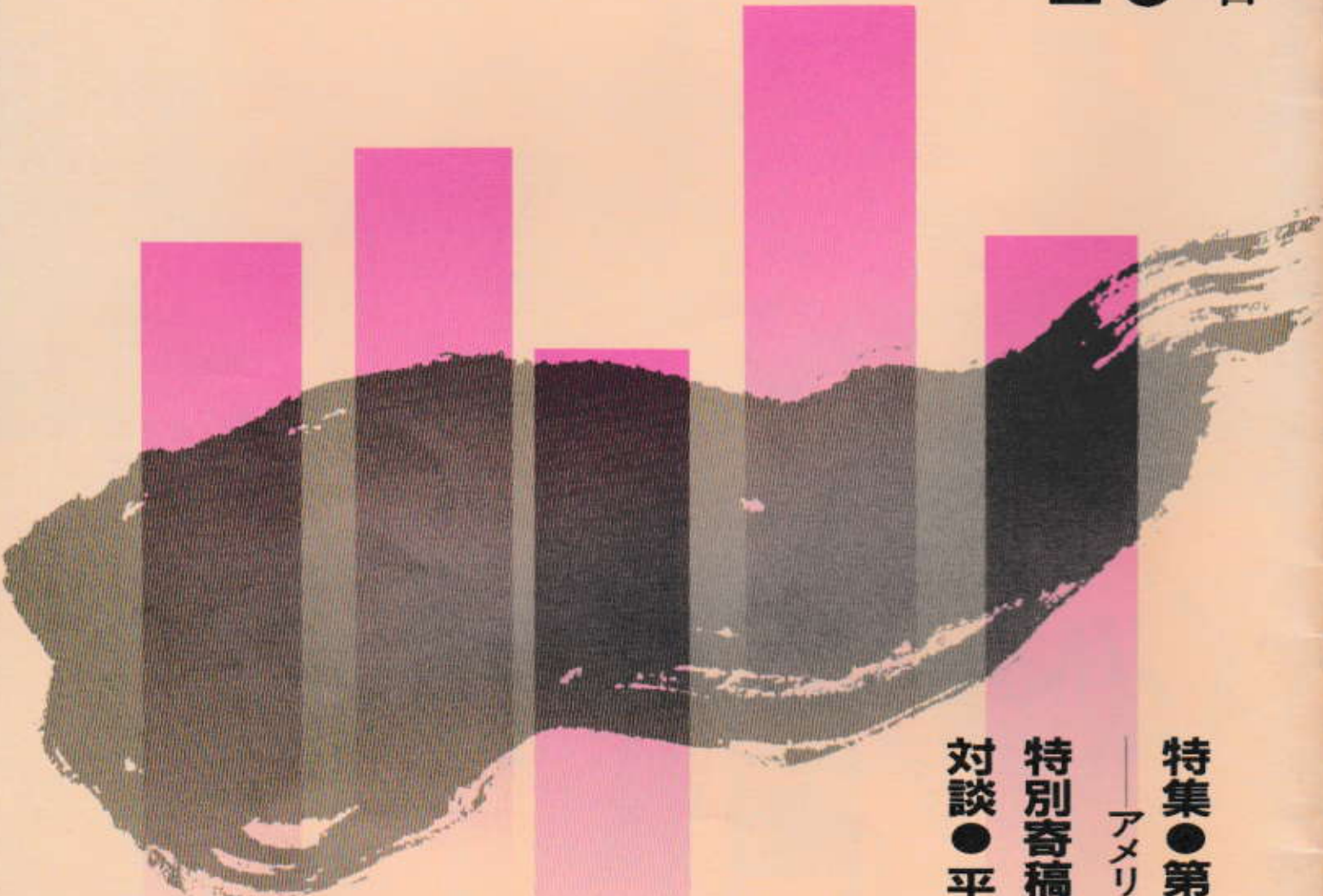
PRO

MUSICA

NIPPONIA

第20号 1988年

20 春



特集●第十四次海外公演

— アメリカ公演報告 —

特別寄稿●田辺秀雄

対談●平井澄子↕田村拓男

卷頭言

こんな世の中

アロハシャツでも着てやろか

粗々

粗々は私の俳号です。句会の主権者が女性で俳号がしく。そんならと、あらあらかしくのあらあら、字引で教えられて粗粗と書く。

こんな世の中で暮らしている。いろいろお世話になるから開き直って軽蔑する気は更にないけれど、雑誌からマンションから、どこを見てもみんな日本無視の横文字ばかり、いい加減腹が立ってペラポーム、こんな世の中、となるのです。

二百何十年も続いて今も尚、堂々とは言えないけれど、つつましく、古風に生きていく「芸」が臨終に近く、手おくれの状態です。見て見ぬ振りすることが当世気質で、それを当り前と思う人もあれば全く気にしない人もある。私ひとりハラワタの煮えくり返る思いのあけて、これも現代一つの「お笑いぐさ」に過ぎないかもしれない。邦楽の一種、新内。古くから遊芸俗曲と呼ばれてきた芸の中でも、新内は他流に較べて聴衆や稽古の門人に下層階級の衆が多く、やがて「流し」の世渡りが始まり、語り物浄瑠璃としてよりも「挺三味線の遊里情緒が持て囃され、そんな新内を「くさやの干物」に例えた人もあれば「麻葉」と診重がった声もある。然るに、企画宣伝の天才で金づるあり、押しの大さは抜群、芸魂より商魂一途の男ありけり、戦後東上してラジオ、レコード、芝居、テレビをわがものとし（つまりマスコミがみんな乗せられ）善人揃いの新内人みんな彼の前に低頭し似非古曲の横行、聴くに耐えざる「第一入者」大劇場大ホール主義等々にて新内浄瑠璃低調墮落、臨終近し。私は権力や規約に束縛されるのが嫌い、気まま身ままの「崩れ」に安住して立身出世の欲はなく、財宝貯蓄の野心もなく、ひたすら「美しい芸」を目ざして今日に至る。老齢文弥の私憤と笑い給うな、他の音楽界にもかかる事あらん。何よりも「人」が尊い。

岡本文弥

目次

● Contents

巻頭言

岡本文弥

1

特集

アメリカ公演(第十四次海外公演)報告

田村拓男

2

特別寄稿

田辺秀雄

9

対談

平井澄子 ↓ 田村拓男

11

現代邦楽事情

田中屋情報へその④
松尾芸能賞受賞

田中隆文

13

日本音楽集団定期演奏会から

第102回定期演奏会
第103回定期演奏会

長尾一雄
富樫康

15

小さな空間、大きな出会い

— サロンコンサートレポート Vol.3 —
ほうげん抄

17

日本音楽集団の主な活動記録

18

日本音楽集団の今後の予定

日本音楽集団メンバー表

編集後記

22



吉松操作曲「弥勒効果」をルーカス・フォス指揮、ブルックリン・フィル室内オーケストラと共演（3月9日、リンカーンセンター・アリスタリーホールにて）

アメリカ公演

《特集》

第十四次 海外公演 報告

田村 拓男

今回の演奏旅行は、文化庁が主催し、国際交流基金が後援する日米舞台芸術交流事業の一つとして行われたものである。日本音楽集団にとっては前回（一九八四年）、ソ連・東独・フランス・フィンランドを回った第十三次に次ぐ第十四次海外公演であり、アメリカでの公演はおよそ十年振り。スタッフを含む一行十七名は二月二十九日から三月十七日まで、アンアーバー、デトロイト、ニューヨーク、セントルイス、ロサンゼルス、ホノルル、リフエの七都市で一般公演、マラソンコンサートや学校公演を含めて十公演を行ってきた。この内ミシガン大学（アンアーバー）、デトロイト、ニューヨーク、ロサンゼルスでの公演は、ミュージック・フロム・ジャパン（代表＝三浦尚之）によるものである。



ニューヨーク、マラソンコンサートで長沢勝俊作曲「琴四重奏曲」を演奏中の琴群

今回のツアーの特徴は集団単独公演のほか、ミシガン大学での邦楽器のレクチャー、ニューヨークではルーカス・フォス指揮のブルックリン・フィル室内オーケストラと共演するなど、現地のそれぞれの弦楽オーケストラや指揮者と、またミシガン大学のマイケル・ユドー教授の率いる打楽器アンサンブルとは、ミシガン大学のほかデトロイト、ニューヨークでも共演するなど、東西楽器の交流や日米音楽家の交流を通して日米音楽文化の交流発展に大きな貢献にも貢献できたことだろう。

その橋渡しをした曲が今回ミュージック・フロム・ジャパンと集団の共同委嘱になる吉松隆氏の「奔動効果」(弦楽十一名、邦楽器十二名)とミシガン・パーカッションアンサンブルが委嘱した和田薫氏の「楽市七座」(篠笛、和太鼓二名、洋楽打楽器四名)。

そして既に定評を得ている三木稔氏の「序の曲」(尺八、二十絃箏、太神三味線、弦楽十二名)であった。

もう一つ特筆すべき大きなイベントが「六時間マラソンコンサート」である。マラソンコンサート自体、アメリカや日本に於いても、しばしば行われるものではなく、ましてニューヨークで邦楽器だけのマラソンコンサートというのは初めての事である。しかもこのマラソンコンサートはWNYC-FMラジオで完全中継された。

二月二十九日午後四時半、成田発デトロイト直行便ノースウエスト機

は、その日の午後三時前、無事にデトロイトに着いた。この冬、零下三十度の日もあったとの情報で皆それぞれに防寒具の用意は怠りない。しかし実際には摂氏三〜五度という温度で、驚くほどではなかった。

デトロイトから車で四十分走ったところにあるアンダーバーは大学の町だ。五百二十六ヘクタールの広大な敷地を誇るミシガン州立大学である。我々の宿舎に当てられた大学内のホテルはゆつたりとしていて実に気分がいい。

着いた翌朝は「楽市七座」の練習から始まる。和田氏の作品は東西打楽器のエッセンスを引出し、演奏者も聴衆も無条件で楽しめる曲に仕上がっている。非凡さがあるが、練習も回を重ねる毎に段々と感上がってきた。

「パーカッショングループ」の練習は緊張感溢れるものだったが、先生と生徒という壁のないチームワークを目的の当りにして驚いた。小生も、そのチームワークに参加できたのではないかと思っている。楽しかった。

(竹井誠)

三月二日は先ずミシガン大学のロックハム会館で集団の単独公演。初日の緊張感と時差との闘いを乗り越えて、先ずは快調なスタート。

三月三日は集団(笛・打楽器二名)とミシガン大学パーカッション・アンサンブルのコンサートで和田薫氏の「楽市七座」の初演。ジョン・ケンジ氏の「竜安寺」、三木稔氏の「マ

リンパ・スピリチュアル」、石井真木氏の「マリリンバ・スタック」等が並ぶ。比較のおとなしかった客席が、「楽市七座」が終わった瞬間、割れるような拍手。

「集団打楽器群の演奏を客席で聴くことが出来、打楽器の魅力を満喫しました。三木さんが「西洋の打楽器と一緒に聴いていると、騎馬民族と農耕民族の違いが演奏の姿にもはっきり現れている」と言われましたが、西洋打楽器はまさに大草原を駆け回る様をふつふつと思いつかばせる躍動感あふれた演奏、日本打楽器は大地に足をふんばり、腰をいれて黙々と耕している感じの演奏。この二つが入り交じった演奏を、聴くことと見ることの両面から十分に楽しむ味わいました。この違いは楽器にもよく現れているとつくづく感じました。西洋打楽器は少しでもきれいに、よく響くようにと合理的に改良して行くのに対し、日本の打楽器は出にくい楽器から、良い音ばかりでなく、いかに色々な音を引き出すかというもので、二つのぶつかり合い

もやはり騎馬・農耕の現れと感じられました。そして曲に於いては、もつと反発し合い、ぶつかり合ったほうがいいと思いました」(坂井敏子)

マルム教授の東洋音楽研究室でレクチャー

ミシガン大学にはハワイ大学と並ぶ東洋音楽研究室があり、マルム教授を中心に長唄・華曲・尺八などの授業が熱心に進められている。学内

ミシガン大学でレクチャーのメンバー



和田薫作曲「楽市七座」をミシガン大学パーカッション・アンサンブルと共演(3月9日、アリストクリーホールにて)

には豊敷の教室もいくつもあり、華三味線、太鼓あるいはガムランなどの楽器が豊富に揃っている。集団のメンバーの何人かが忙しい練習の合間をぬって特別講師を務めることになった。

「弥勒効果」を デトロイトで初演

三月四日、自動車の街デトロイトのオーケストラ・ホールではマツダの提供でコンサートが行われた。ミシガン大学弦楽オーケストラと集団の共演で二曲、吉松隆氏の「弥勒効果」の初演と三木稔氏の「序の曲」、パーカッション・アンサンブルとの共演で「楽市七座」、集団単独では長沢勝俊氏の「大津絵幻想」などのプログラムが組まれていた。

デトロイトニュース 三月七日号より

「東と西、デトロイトで 音楽的調和の出会い」

ニューヨークのコンサートシーンでは既にお馴染みのミュージック・フロム・ジャパンのコンサート企画が、十三年を経た今年、初めてアメリカ各地でも公演され、トップクラスの日本音楽を紹介している。十七人編成のプロ・ムジカ・ニッポニアは全曜日、地元のアート・ホールで表情豊かな日本の伝統的音楽や新作を披露した。(中略)

今回のプログラムでは、東西の楽器を組合せて演奏する歌曲を呼称としており、中でも吉松隆作曲「弥勒効果」はこの度で世界初演。この曲の終結は、ラヴェルの「ボレロ」のようにゆるやかに響くメロディを、様々な楽器が混じり合い、繰返すという手法である。

指揮者リチャード・ローゼンバーク指揮によるミシガン大学コンテンポラリー・ディレクションズ・アンサンブルが、演奏の

「西側」を担当した。またミシガン大学パーカッション・アンサンブルが演奏した作品二曲は、この新しい音の世界に才能豊かな作曲家たちの主張に特徴づけられるコンサートに花を添えている。

一九六四年発足の日本音楽集団創立者はこのコンサートでも代表される二人の作曲家。長沢勝俊は日本の伝統的な音階や和声構造を用い、三木稔は国際的スケールで現代音楽の斬新な響きを創造する。

長沢作品「大津絵幻想」は「静謐」又は「響と太鼓」といったサブタイトルを持つ美しい組曲で五音階と、日本の伝統的な楽器音を使用している。三木の尺八、琴、太鼓及び弦楽器のための「序の曲」は緊張と静寂に値する。異文化の視点、融合点を視覚的にとらえた東西の混合物と言えよう。

しかし、長沢と三木の交響的音楽に対するアプローチが異なるという訳ではない。二人は共に日本の古楽器や楽団の熟練した奏者たちの可能性を最大限に広げようとしているのである。

洗練され、高度なニュアンスを持つ三木の音楽はセントルイス、オペラ劇場が近々上演した二つのオペラによりアメリカでもやや知られている。リリカルでパワフルな表現力を持つ三木は現在活躍中の日本の作曲家のなかでは第一人者ではなからうか。

この演奏会はまた日本の作曲家たちの才能ある若い世代も紹介した。二十三歳の和田豊作「楽市七座」は目をくらますような打楽器音に、昔ながらのしほの裏面的な高が交互に行交う劇的な作品である。「弥勒効果」作曲の吉松(三十四歳)も若い世代を代表する。「弥勒効果」という題のついた三楽章形式の曲はベンデレッツキの弦のテクニクやラヴェルやドビュッシーの和声表現力にも満ち溢れている。

第一章「風切」では大自然の力により、様々な風音の生れるミステリアスなイメージを表現する。作曲家のオリジナリティがきらめく。ボレロのような「豊ひ人」は最終に向かっている道すがりがすばらしい。

東西の文化のかけ橋は間違いなく形成されつつある。日本音楽集団の音楽は二つの異なった音楽文化を創造的に衝突させた結果である。このすばらしい結果を私達にもたらしてくれたミュージック・フロム・ジャパンは真の文化的貢献を果たしてくれたことになる。

ナンシー・マリッツ 訳：上野道子

ニューヨークの マラソン・コンサート

三月五日にニューヨーク入りした。

空港から楽器と共にアジアソサエティホールへ直行し、音響テストを兼ねた練習を軽く行う。

三月六日は集団が初めて体験するマラソン・コンサートの日である。

プログラムは集団が前もって送っていただいたレコードやテープの資料をもとに、放送側の実行委員が独自に選曲したもので、日本の古典や現代曲、独奏曲から大合奏まで二十数曲が並んだ「別掲」。アメリカ人の作品もジョン・ケージ氏の「竜安寺」とデー

ヴィッド・ロージ氏の「協奏組曲」が登場。会場に現れたジョン・ケージ氏らへのインタビュウや今回の芸術監督を務める三木稔氏や演奏家へのインタビュウをおりまぜながら六時間のプログラムに構成したものだ。

ぶつづけ本番でありながら寸分違わず進行したのは敬服した。放送を聴いて駆けつける人や会場から急いで仲間へ電話で知らせる光景や、午後五時の放送終了間際に総立ちで拍手を送る聴衆を見て、司会のデー

ヴィッド・ガーランド氏やコーディネーター、スタッフ諸氏らと共にこの企画の成功を喜び合った。

「マラソン・コンサート」の朝、メンバーの表情が晴ればれと何か浮き浮きしている様に見えたのは、思えば緊張と興奮のせいだったかも知れない。それほど六時間に及ぶマラソン・コンサートは我々にプレッシャーを与えていたと言える。しかし、そ



ミシガン大学コンテンポラリー・ディレクションズ・アンサンブルと吉松隆作曲「弥勒効果」を共演。指揮者リチャード・ローゼンバーク (3月4日、デトロイト・オーケストラ・ホールにて)



デトロイト演奏会後のレセプションにて (後列中央がアメリカマツダ社長)

マイケル・ユドー氏を囲んで坂田(左)と田村(右)



れらもいざ始まってしまおうと、皆がその初めての体験を楽しんでさえているように、演奏が次々と激みなく進んで行く」(藤崎重康)。

「とにかくマラソン・コンサートが終わるまで重い十字架を背負って歩いていくという精神状態でした」(大島菜穂子)。

マラソン・コンサートでのジョン・ケージへのインタビュー

(抜粋)

司会 日本は今まであなたにとって、いろいろな影響を及ぼしたそうですが、J・C 私はずっとマハムドバから来た、キタ・サラバイ等、インドの音楽家たちと親密な交流を始めました。私は彼女からもらった本「シュリ・ラマ・クリシュナのゴスペル(福音)」やアルディ・サクスリーの「永生の哲学」という本も読みました。この本は様々な時代・文化で書かれた哲学を採り集めたもので、その中で一番印象に残ったのは神の教えを書いたものでした。当時、鈴木大拙がニューヨークへ講義をしに来た、私は幸運にもコロンビア大学での毎週金曜日の午後の講義を二年間続けて聴くことが出来たのです。

以来、日本を数回(少なくとも七回くらいは)訪れました。そして鈴木大拙がまだ生きていた間に二度、一度は鎌倉、その次は京都へ、竜安寺の庭のあるところへ後に会いに行きました。



マラソンコンサートでインタビューに応えるジョン・ケージ氏

司会 じゃ竜安寺というのは京都の仏教の実在のお寺の名前ですか? 若だとか、そのまわりに小石を敷きつめた庭のあるお寺で、これがこの曲に影響を与えたのですか?

J・C でも、この曲は普通の書き方で書かれたわけではありません。それに京都の庭を眺めながら書いたのではなく、ニューヨークの自宅にある庭を見ながら作曲したのです(笑)。竜安寺の石より小さいものですが、あそこにあるように十五個の石を置いてあります。そして石のまわりの小石を、くま手てかくように五個置の上を、小さく、また、左から右へ書かないといけません。石のまわりをぐるぐる回るといけませんけど、石の輪郭の一部を書くことはできません。その輪郭を輪郭の「神韻」として、結果はこれから皆さんに聴いて頂きますが、砂きざみで滑っていくようなグリッサンドの音楽です。この音のような音とは対照的に打楽器の音を使い、庭の大きな石と敷きつめた小石の対照的な様子を表しています。 訳: 上野道子

リンカーンセンターで

三月九日、思い思いにニューヨークの休日を楽しんだ集団のメンバーは、今度はリンカーンセンターのアーティスト・ホールで本番を迎えた。ミシガン大学から車で楽器と共に十時間かけてニューヨーク入りしているパーカッション・アンサンブルと、オーケストラは今度はルーカス・フォス指揮のブルックリン・フィルの室内オーケストラとの共演でデトロイトと同じプログラムを上演する。ルーカス・フォス氏は自身作曲家でもあり、楽譜の読みも深い。鋭い洞察力で練習の段階からぐいぐいと盛上げて行く。オーケストラも世界一級のプロ、さすがに響きが違う。終演後のパーティーで分ったことだが、コントラバス奏者は今年初め来日し

たオルフェウス室内楽団(指揮者を持たず、団員の意見を出し合ってアンサンブルを作り上げて行くという民主的なシステムを貫いている合奏団で、国際的にユニークな活動を続けており、NHKでも紹介された)のメンバーでもあった。

ニューヨークからセントルイスへ

三月十日、スケジュールはこの二、三日が最も厳しい。今日はニューヨークを発つてセントルイスで夜単独公演。セントルイスは、今までのアメリ



リンカーンセンター演奏後のレセプションで、右から三浦尚之、ルーカス・フォス、三木隆

カの感じとは全く異なり、古いヨーロッパを思わせる落ち着いた街である。セントルイスでは三木隆のオペラ「ヘアダ」が一九七九年にアメリカ初演され、ベじょうるりンがセントルイス・オペラ・シアターの委嘱によって一九八五年に初演されている。これらの公演には集団のメンバーの何人かが参加している。三木隆の音楽は、セントルイスの人たちにとって、もはや身内の音楽ではなからうか」と地元紙に書かせるほど、お互いに親近感を持つところである。

「空港に迎えて下さった日米協会の方の行届いた準備と歓迎に感激し



ジョン・ケージ作曲「竜安寺」を演奏中の竹井(笛)と黒坂(打)

ました。すみずみまで気を配られ、音楽を愛する心の豊さをひしひしと感じました。私達の演奏を熱狂的に聴いて下さったお客様のこと忘れられません」(花房はるえ)

セントルイス ポスト デイスパッチ 三月十二日号より(抜粋)

「日本音楽集団 シェルダンホールで成功」

(前略) 多くの日本の批評家に聞くと、より重要な部分であるといわれる三木のもう一つの側面は、東京を本拠に一九六四年に創立された日本音楽集団における仕事を示しているのだ。(中略) 日米協会セントルイス支部と、今年十一月に東京に「ベじょうるり」を持つて行くセントルイス・オペラ劇場の共催による日本音楽集団公演は、多分このシーズン、シェルダン・コンサート・ホールで催された公演の中で最高の成功に数えられる祝祭であった。また、その素晴らしい音楽はまさに日本的で、響きがことこのほかにエキゾチックでありながら、全ての聴衆に容易に理解できるような、見えないところで西洋的な構築性を充分に取入れている。(中略) 三木は日本音楽集団のために豊富に創作した、レコードからの資料で判断すると、彼の作品のある部分は、古典的な日本の雅楽や能楽様式に性格付けられた抑制された激しさを交えた厳格さと静ひつみの美学を強烈に保持しているにも拘らず、大胆で現代的な表現を行っている。しかし、木曜日のプログラムにおける作品たちは、彼のこういうた様式への一つのヒントに過ぎない。それは確かに愛すべき音楽であり、小さな好奇心を興たすより、より音色を強調した観点に立っていた。しかしながら、聴衆が喜ばざるべきほど、私は「三木が持参する彼のベストの作品ではない(と恐つてしまう)。」

今やセントルイスは、三木作品のうち西洋楽器のための日本風味を持った作品群と、日本楽器のための西洋風味を持った作品を知る事ができた。多分、日本音楽集団は三木が自国で認識されている種類の音楽を持って、いつか再びやって来るであろう。

ジェームス・ヴィエルクツィキ



(3月6日、アジアソサエティーホールにて)

セントルイスからロサンゼルスへ ロス事件勃発

三月十一日、昨夜の演奏会後のレセプションでは大勢のお客様から身にあまる賛辞と美味しい御馳走を頂戴し、演奏会の興奮と最高の余韻をそのまま空港に持込んでいた。楽器を積み搭乗手続きを済ませ、出発を待つばかりのところ、アナウンスがあった。「ロサンゼルス行き：T.W.九十一便はエンジン関係の部品取替のため出発が約一時間遅れる予定」とのこと。その時点ではまだ余裕があった。さらに二時間待ち三時間待ちの間に、「どうやら大掛りな修理をしているらしい」という情報と共に浮足立ってきた。ロサンゼルスのお客様と練習をするためには、ぎりぎり今出発しなければ間に合わない時間だ。段々と絶望感が漂って来た。今夜コンサートが出来ぬだろうか。ロスへは頻りに電話を入れた。セントルイスで長年活躍しているハービストの渡辺綾子さんが電話係りを引受けてくれて助かった。やっと別便を仕立てて飛び立つことになったのが出発予定時間からおよそ七時間後。

「命には代えられない。安全が第一」と勉め合ってみるものの、やはり気になるのはロスで私たちの到着を今か今かと待たびているであろうスタッフやお客様のこと。

結局ロスに着いて会場に入ったのが夜九時二十分頃。ここでまた驚くことが待っていた。ステージからきれいな尺八の音で「鹿の遠音」が聞こえてくる。こんな名手がロスにもいたのか。あるいはレコードか。「三橋が吹いている」誰かが叫んだ。神出鬼没な男だ。別な仕事でロスに来ていて「演奏会をこっそり聴いてびっくりさせてやろう」と会場に現れた彼の方がびっくり、事情を聞いた彼はホテルまでマラソンで楽器と着物を取りに帰り急場を救う羽目になった。

スタッフたちは、とちかく八時の開演時間を三十分遅らせ、指揮者ダン・シュルマン氏のピアノと翌日ヴァイオリニサイタルを控えている人として現代音楽の演奏をお話、そして三橋の尺八による二十分間の「鹿の遠音」で繋ぐことにしてスタートしたので。団員たちは急いで楽器を出す、私は指揮者と楽譜だけで打合わせをする。オーケストラとは全くのぶっつけ本番だ。大過なく終わったことが不思議なくらい。

結局、演奏会が終わったのが夜の十二時十五分前。八時前から来ていたお客様は四時間も付合ったことになる。主催者が事情を説明し、帰る方には返金する旨案内したが結局一人か二人帰っただけで殆んどの人が最後まで聴いてくれた。こんな体験は二度とあつてはなるまい。

常夏のハワイへ

三月十二日ホノルル着、今回のツアーは摂氏三度から二十九度と温度差も激しい。ともあれ、ツアーはいよいよ終盤を迎えた。

三月十四日、昼間はカメハメハ・



ニューヨーク、マラソンコンサートで演奏中の日本音楽集団



ハワイの休日、ヌアヌバリにて



カウアイ島リフエでのコンサート

スクール（ハワイ原住民の血が四分の一入っていないと入学できない）で二度の学校公演を行った後、夜はハワイ大学内のケネディ劇場でコンサート。集団とハワイ大学とはますます関係が深まる感じがする。今回もフアステンベルグ教授と山田ちえ先生にすっかりお世話になった。

山田先生はミシガンのマルムかハワイの山田かといわれる人で、大変な情熱をもってハワイ大学で長唄を教えている人だ。

もう一人、ハワイ大学で作曲を学んだジュン・フィリップスさんと彼女の夫君パトリック・キムさん二人にはカウアイ島リフエでのコンサート

とも企画して頂くなど大変お世話になった。ジュンさんには彼女の作品「トワイライト・スノウ」(笙、尺八、琵琶)で笙の演奏にも参加して頂いた。

ハワイのプログラムの前半は、古典や現代曲のソロから大編成までを出入りを含めて一時間弱の一つのまとまったステージにする方法(我々はいわゆるBプロと呼んでいるもの)をとった。この方法だといろいろな楽器のピースを並べられるので、演奏者個々人の技巧も充分に発揮出来るし、古典曲などの紹介がしやすいこと。音源をワイドに立体的に動きをつけて構成することもできる。

コンサートは盛況だった。馴染みの方が増えたり、新聞やテレビを見に来られた人、尺八や箏を習っている人、大学生や日系米人など大勢のお客様の拍手を受けて二曲のアンコールをする事になった。中に画家の猪熊弦一郎氏がおられ賛辞をくださったのには感激した。

三月十五日、リフエのコンサートではカウアイ日本文化協会や特に日系米人の方々が熱い声援を送ってくださった。最後にステージで全員がレイをかけて貰った。そのレイはカウアイ島独特のマイリというはっぱで作られたもので、我々のために当日、わざわざ山に取りに行つたものだそう。かくしてカウアイ島のみなさんの心暖まるもてなしを受けながら、幸せな思いの中で今回のツアーを閉じることができた。

日本音楽集団にとって四年振りの海外公演であった今回のアメリカ公演で感じたことがいくつかある。

第一に、アメリカ側の対応が「音楽」中心に自然になってきたこと。七十年代は脱西欧ムードを求めると、聴者も多く、日本の楽器の珍らしさと、神を中心とした東洋的な非合理への憧憬や期待のため、音楽としてわれわれの作品や演奏に接してくれないという人もあった。今回は、休憩や終演時に楽器の周りに集まる人はぐんと少なくなり、新聞評などでも楽器紹介にあてるスペースが減った。

伝統的な古典曲だと、演奏が特によくなくても必ず賞め、西洋的要素の混ったものを軽視する姿勢も消えて、作品があるがままに評価できるようになってきた。「やっと」の思いだ。

まだ作品中心だが、公演を繰り返すうちに演奏評も細かくされるようになってあろう。

第二に、日本音楽集団自体がオリジナルとされたこと。米本土への76・78年の公演旅行は冒険を伴った道場破りの意味もあった。その後十年近く集団は米本土に行っていないにも拘らず、今回の交渉中や公演旅行中にも、はっきり期待の日を感じた。

「ミュージック・フロム・ジャパン」の場合も、数年前からチャンスがあればといわれていたので今回の企画に結びついた。期待につながる前回は、前々回の成果があったのだらうし、その折録音したノンサッチ・レーベルの三枚のレコードも役立つたであ

らう。私の二つのオペラの何度かの公演に参加してくれた演奏者たちの技量は、当時何十という全米の新聞に報道されたが、今回それらオペラと結びつけて書かれることが多かった。ファンと自称する人たちは結構な数になり、今後はそれに応えていく努力が大変だなあ、と気持ちを引き締められたのだ。

さて、集団は今回の渡米組と同レベルのもう一組が楽に組織できる陣容を十年も前から持っており、数や行動範囲では、十四次はむしろ規模であった。しかし、六時間のマラソン・コンサートなどもあつて曲数は多かつたし、ルカス・フォスのようにに熟達の人を含む三人のアメリカ人指揮者と一緒に仕事もできたが、参加者たちは常に落ち着いていた。

三年休んだにも拘わらず海外公演は特殊なものではなくなっている。この第三のポイントには、78年の旅行記に私が予測した通りだ。海外公演自体が、いわば中年の落ち着きを持つていながら、ロス廷着事件のような時には全員一糸乱れぬ行動力を結集できる頼もしさである。

大変状況なことだが、この点を私は逆に気にしている。私は、たとえおつちよこちよいでも、もう一度青春のひたむきさ、荒々しさに立ち戻りたい欲求を、ゆつたりと完成された旅の中で終始感じ続けていた。勿論、それは、臨時とはいえないアーティスティック・ディレクターを引き受けた私こそが背負わねばならなかつた問題のはずだったのだが……

第14次海外公演の記録

3月2日 アンアバー/ミシガン大学

1. 新八千代獅子/日本音楽集団編曲
2. 鹿の遠音/古典 坂田・藤崎・竹井・米澤
3. フォンタスマゴリア/長沢俊俊作曲
4. 凸/三木悦作
5. 「四季」ダンス・コンセルタント/三木悦作

3月3日 アンアバー/ミシガン大学

1. 黄安寺/ジョン・ケーシ作曲 竹井・黒坂
2. 奥市七座/和田豊作曲(初演) 竹井・黒坂・黒田・ミシガン大学オーケストラ・ジョン・アンサンブル
3. ミシガン大学オーケストラ・アンサンブルとマイケル・ユードによる数曲(三木悦作曲のマリンバ・スピリチュアルを含む)

3月4日 デトロイト/オーケストラ・ホール

1. 新八千代獅子
2. 奥市七座
3. 序の曲/三木悦作 坂田・坂井・木村・ミシガン大学オーケストラ 指揮 リチャード・ローゼンバーグ
4. 大津絵幻想/長沢俊俊
5. マリンバ・スタック/石井真水作曲
6. ミシガン大学オーケストラ・アンサンブル

7. 徳助効果/吉松隆作(初演) 日本音楽集団・ミシガン大学オーケストラ 指揮 リチャード・ローゼンバーグ
8. ニューヨーク/アジア・ソサエティ 6時間マラソンコンサート
9. 夕影の詩/三木悦作 藤崎・野口・坂井
10. ティヴェルティメント/佐藤敬直作曲
11. 六段の橋/八橋棟康 坂井
12. 五段橋/光崎桃枝 花房・宮越
13. 幕間三重/古典 野口
14. 「鐘の道行」と「狐火」/森太夫古典

15. 風/牧野由多可作曲 宮越
16. 第四重奏曲/長沢俊俊 花房・木村・大島・宮越

3月5日 ホール(リンカーン・センター)

1. 新八千代獅子
2. 奥市七座
3. 序の曲 坂田・坂井・木村・ブルックリン・フィルハーモニー室内オーケストラ 指揮 ルーカス・フォス
4. 大津絵幻想
5. マリンバ・スタック
6. 徳助効果 日本音楽集団・ブルックリン・フィルハーモニー室内オーケストラ 指揮 ルーカス・フォス
7. セントルイス/シエルダン・コンサート・ホール

8. 新八千代獅子
9. 鹿の遠音 坂田・藤崎・竹井・米澤
10. フォンタスマゴリア
11. 秋の曲 坂田・木村
12. 「四季」ダンス・コンセルタント
13. 夢十夜/広瀬雅平作曲
14. フォンタスマゴリア
15. ニューヨーク/アリス・タリ

16. 新八千代獅子
17. 鹿の遠音 坂田・藤崎・竹井・米澤
18. フォンタスマゴリア
19. 秋の曲 坂田・木村
20. 協奏組曲/ティヴィッド・ローブ作曲
21. 室柱奏/藤崎重康 他
22. 黄安寺 竹井・黒坂
23. 聖阿止観/堅田登輝作曲 堅田
24. 序/三木悦作 坂田・黒坂
25. 「四季」ダンス・コンセルタント
26. 夢十夜/広瀬雅平作曲
27. フォンタスマゴリア
28. ニューヨーク/アリス・タリ
29. ホール(リンカーン・センター)

30. 新八千代獅子
31. 鹿の遠音 坂田・藤崎・竹井・米澤
32. フォンタスマゴリア
33. 秋の曲 坂田・木村
34. 「四季」ダンス・コンセルタント
35. 夢十夜/広瀬雅平作曲
36. フォンタスマゴリア
37. ニューヨーク/アリス・タリ
38. ホール(リンカーン・センター)

39. 新八千代獅子
40. 鹿の遠音 坂田・藤崎・竹井・米澤
41. フォンタスマゴリア
42. 秋の曲 坂田・木村
43. 「四季」ダンス・コンセルタント
44. 夢十夜/広瀬雅平作曲
45. フォンタスマゴリア
46. ニューヨーク/アリス・タリ
47. ホール(リンカーン・センター)

48. 新八千代獅子
49. 鹿の遠音 坂田・藤崎・竹井・米澤
50. フォンタスマゴリア
51. 秋の曲 坂田・木村
52. 「四季」ダンス・コンセルタント
53. 夢十夜/広瀬雅平作曲
54. フォンタスマゴリア
55. ニューヨーク/アリス・タリ
56. ホール(リンカーン・センター)

3月6日 ホール(リンカーン・センター)

1. 新八千代獅子
2. 鹿の遠音 坂田・藤崎・竹井・米澤
3. フォンタスマゴリア
4. 秋の曲 坂田・木村
5. 「四季」ダンス・コンセルタント
6. 夢十夜/広瀬雅平作曲
7. フォンタスマゴリア
8. ニューヨーク/アリス・タリ
9. ホール(リンカーン・センター)

10. 新八千代獅子
11. 鹿の遠音 坂田・藤崎・竹井・米澤
12. フォンタスマゴリア
13. 秋の曲 坂田・木村
14. 「四季」ダンス・コンセルタント
15. 夢十夜/広瀬雅平作曲
16. フォンタスマゴリア
17. ニューヨーク/アリス・タリ
18. ホール(リンカーン・センター)

19. 新八千代獅子
20. 鹿の遠音 坂田・藤崎・竹井・米澤
21. フォンタスマゴリア
22. 秋の曲 坂田・木村
23. 「四季」ダンス・コンセルタント
24. 夢十夜/広瀬雅平作曲
25. フォンタスマゴリア
26. ニューヨーク/アリス・タリ
27. ホール(リンカーン・センター)

28. 新八千代獅子
29. 鹿の遠音 坂田・藤崎・竹井・米澤
30. フォンタスマゴリア
31. 秋の曲 坂田・木村
32. 「四季」ダンス・コンセルタント
33. 夢十夜/広瀬雅平作曲
34. フォンタスマゴリア
35. ニューヨーク/アリス・タリ
36. ホール(リンカーン・センター)

37. 新八千代獅子
38. 鹿の遠音 坂田・藤崎・竹井・米澤
39. フォンタスマゴリア
40. 秋の曲 坂田・木村
41. 「四季」ダンス・コンセルタント
42. 夢十夜/広瀬雅平作曲
43. フォンタスマゴリア
44. ニューヨーク/アリス・タリ
45. ホール(リンカーン・センター)

46. 新八千代獅子
47. 鹿の遠音 坂田・藤崎・竹井・米澤
48. フォンタスマゴリア
49. 秋の曲 坂田・木村
50. 「四季」ダンス・コンセルタント
51. 夢十夜/広瀬雅平作曲
52. フォンタスマゴリア
53. ニューヨーク/アリス・タリ
54. ホール(リンカーン・センター)



マラソンコンサートが終わってスタッフと共に

●今回の参加メンバー
坂田誠山(尺八)・藤崎重康(尺八・笛)・竹井誠(前・尺八)・米澤浩(尺八)・坂井敏子(大鼓)・野口美恵子(三味線)・田原隆子(琵琶)・花房はる(華)・胡弓)・五橋圭子(十七絃)・木村玲子(二十絃)・大島菜穂子(二十絃)・十七絃)・堅田登輝(打楽器)・黒坂昇(打楽器)・田村拓男(指揮)・打楽器)・三木悦(今回の音楽監督)・中村秀徳(舞台監督)・奈良義典(事務局長)

琴・三絃
一 藤

ローン・下取り・修理致します。

[八千代店] 千葉県八千代市八千代台北
17-16-13
☎0474-84-8859

[調布店] 東京都調布市上石原
1-6-14
☎0424-84-0092

日本音楽集団
第14次海外公演を
お世話しました。



郵船航空サービス株式会社

渋谷旅客営業部

〒150 東京都渋谷区道玄坂1-13-5

電話(03)780-2082

団体科：佐藤／木下／熊谷

信頼の品質

箏
三味線

◆ 田波楽器株式会社

〒537 大阪市東成区
東今里二丁目4-6
TEL 06(976)1885
FAX 06(974)9632



アイ・エム・エス

●楽器リース●保管●移動●ステージ・スタッフ派遣

〒167 東京都杉並区上荻2-21-25
オリオンシャトー1F
PHONE. 03-397-2292

楽譜と作曲

田邊 秀雄



数年前にできた団体で、新典音楽協会というのがある。若い世代に連するような現代邦楽のレパートリーをふやす為に会員が集まって、活躍している作曲家に作品を依頼するもので、発足以来五年既にその仕事は着々と進行し、ヴァラエティある七つばかりの立派な楽曲が完成している。私もこの会に頼まれて初めからお手伝いしているが、こうした洋楽と邦楽の接点があると、すぐぶつかってくる問題は楽譜を一体如何

いうスタイルで扱ったらよいかということがある。一般的には洋楽系の作曲家が多いので五線譜を用いることが多いのだが、邦楽界では楽器や流派によって種々な異なる楽譜が使用されていて、その方が便利だという人も多く、またものによっては五線譜必ずしも万能で適当と思えない場合もあるのだ、実際に当たってみると中々考えさせられることが多い。楽譜について今まで論じられていないようなので、こゝに少し取り上げ

てみたいと思う。

邦楽器では、今日では大体その楽器に適した記譜法というのが作られていて、学習者はそれを用いている。多くの場合、演奏上の便宜から絃楽器なら勘所譜（ポジジョン）や絃名譜など、管楽器なら孔名や音名譜、その他でその楽器固有の楽譜である。その絃名譜は古くからのもので、十本の絃を低いほうから一二三四……十斗為巾とさきめ、調子の如何に係わらずそれで弾くことになっている

が、それも各流各派で後世には少しずつ違いがでてきている。三絃は多く勘所譜で、現行のものほどでも大正以後のものであり、大体三本の線をはき、それを三つの絃に見立てて、その上にポジジョンを数字で示し、五線譜の如く小節線で区切った文化譜というのが最も普及しているが、流派によっては勘所を和洋の数字、ひふみやなどの仮名を平、片、変態仮名などで区別したりしている。尺八は孔名譜といおうか、邦楽でよく

用いられる口唱歌的なものを片仮名で記すもので、フホウエヤイを基本とするものと、ロツレチリヒ(ハイ)によるものがあり、琴古、都山、竹保等の各流で少しずつ異なっている。以上は音の高低に関してだが、リズムをどう扱うか、演奏技巧のことなどは、各々流派によってかなり違つたものがある。楽器はその性質上記録がし易い。だが音楽になると、これは大変難しいことになる。器乐的である古代の部曲などの場合は別として、唯音が上がるとか下がるといった符号くらいで、江戸時代以降のものになると、はつきりとした楽譜はほとんど無いといってよいほどである。これは適当なる記譜法がないのと、楽譜の最も主目的である備忘ということに対しては、歌詞があつて、曲がそれと結び付いている為にそれほど必要で無かつたからとも考えられる。

未だ々々その例は沢山あるが、それを語るのが目的ではないので省略するが、このように邦楽界では学習の便宜の為に多くの楽譜が存在し、邦楽家はそれらによつて学んできたのである。それなら何故万国共通で洗練発達してきた五線譜を早くから使わなかつたのかという人が多いと思うが、その理由は、その音楽が邦楽であつて洋楽でなかつたからと言えよう。私は楽譜というものは元来音楽から生まれ、その音楽の中でそれに適するように発達し、またそれがその音楽を發展させたものであると考へている。確かに五線譜は合理的に旋律や和声をよく現し、リズムについても完全のように見える。その上何よりも強いのは、国際的に通用していることである。だがそれは洋楽、しかも七音階の機能と和声の主とした過去の音楽に対して方能に近いということではなからうか。よく見るとそれは長音階を基本としたもので、しかもハ長調がもととなつてゐる。転調のみならず、音階の種類が変わつたりすると大変読み難くなる。現代音楽などではどうも無理して使つてゐるような気がする。

楽譜というものは元来備忘ということから始まつたと考へられてゐる。メモだが、忘れない為の目安といつたことであらう。更に進んで、演奏(昔は即興演奏だ)を固定する必要の爲となる。唯頭の中で覚えてゐることだけでは忘れるし、また変わつてしまつたりする。やがて他人に教へたり伝へたりするために必要になる。それまでは口から口へ、耳から耳へと教授された。今でもそれが最も正しい優れた教授法だと考へられてゐる場合も多い。だがその爲にも備忘は必要である。従つて楽譜はその音楽と一体で発達するわけである。そこでいわば音楽の数だけ楽譜が出来上がることになる。そして永い期間を経ると、その音楽には一番適した楽譜へと発達する。

しかし無形の楽曲を完全に紙の上に有形化するということは所詮無理な事である。その為には多くの約束事が必要になり、また他の音楽には通用できないかも知れないということになる。だからといつて、それを時代遅れとか原始的だと排斥したくない。それ自体の意義は大きいものがあると思う。前にNHKで「三味線のお稽古」というTVの時間があった。初めは五線譜で教えていたが、多くの投書が来て、文化譜という日本の助所譜を併用せねばならなくなつた。小学校などであれば五線譜が叩き込まれてゐるのに、実際はそうなのである。その理由はその方が覚えやすいし、便利だからということである。尺八などもどうもみてゐると同様である。

新典音楽協会の楽譜などでも、やはり邦楽の楽譜の要望の方が多いやうで、翻訳も必要である。但し邦楽器を洋楽器的に扱つたものは五線譜そのままにしてあるやうである。

だが一方、邦楽内部での流儀による楽譜の違いは何とかならないものだらうか。よく似たものは統一をはかるべきではないか。他所に弟子を取られるのではないかと思ふばかりでは日本音楽の普及はあろか、將來の發展は望めないのである。

なお、私の偏つてゐる音楽の種類の一つに民俗音楽の研究がある。この分野でも楽譜は大変重要である。民謡の採集など、今までは皆五線譜にとつてゐた。純粹の民謡は年と共に無くなつて行き、それを記録保存しなければならぬ。五線譜にとることは大変な労働であり、また演唱者毎に違ふ。それだけではない。こうした記録はそのまま完全な再現が可能であらうか。民謡には歌手の個性のみならず、発声や方言、訛り、その他固有のものがある。知らぬ人がそれを見て元のものが浮かび上がつてこなければ、完全な記録とは言えないと思ふ。しかしこの方面は今では録音というものが簡単に、しかもその音楽自体をそのまま記録できることになつたので、解決をみたやうである。

こういうことも考へ合わせてみると、現在の作曲の楽譜ということも問題が多いのではないかと思ふ。一つはグラフィ的な楽譜の導入である。もう既に現代音楽の分野ではこの種の楽譜は用いられていて、半ば常識となつてゐるとはいうかも知れぬが、楽譜を真に方能にするにはその方法しかないと思ふのである。特に七音階以外の音階などの場合には適してゐよう。何を馬鹿なことといふかも知れぬが、世の中はコンピューター時代なのである。ワープロを使うやうにコンピューターで記録する時代であらう。

もう一つは近頃の音楽は余りにも技巧的でまた作曲者の意思が強く出過ぎてゐる。音楽というものは、もつと演奏者に自由を与えるべきではなからうか。現代音楽では即興演奏を重視しているのが多いが、それほどではなくとも、解釈の自由や工夫位は与へて欲しいと思ふのは私一人ではなからう。そしてまた「六段」のように、初心者も弾け、名人もステージに出せるような曲も欲しいのである。

談

ALOGUE

平井澄子



平井澄子氏

日本語の言語学的な問題というところが民俗音楽の基本になるべきものなのに、日本では全然無視されています。

田村 先日(三月二十六日)のリヤیتالを聴かせて戴き、特に「切支丹道成寺」には大変驚きました。平井先生や宮田哲男さんの発声にも納得がいきましたし、オルガンやヴィブラホンまで入った楽器群を溶け込ませるように実に見事に構成していらっしゃいました。

また現邦連演奏会(二月十八日)の時の北原白秋時による小品集も素晴らしい作品で、青山恵子さんの発声とも合わせてとても感激しました。その時のシンポジウムで「日本語音楽は日本語が原点だ」とおっしゃった。

ていた事にも改めて共感したんですけど、日本音楽集団の今後の課題の一つは、声を伴った作品を作ることです。先生の一連の作品群は我々に一つの回答を示していると思います。今日はいろんな問題についてどなたかとお話をして戴きたかったです。

平井 田村さんなら打楽器のことや集団の事についてお話をしてみたいと思っていましたのでOKしたのですから。

田村 「邦楽現代」発行責任者自ら対談コーナーに登場することには抵抗がありました。

等間隔に弾くことは恥ずかしい。

日本語には頭に小さな休止符がつく。

平井 四十年前のこと、伊藤道郎舞踊団に頼まれて等を弾いていた時、打楽器が一人足りないのでもドラを打つことになったんです。それくらいならできるだろうと思つてやったら、いつもワンポイントずれて私だけソロになつちやうの。それは指揮に慣れないということ、指揮に合せて等間隔に弾くってということがとてもむずかしいんです。等間隔にやることがむしろ恥ずかしいくらいなんです。私たちは四分音符は何となくゆつくりで、八分音符や十六分音符ってのはつまり気味になるんです。

田村 雨だれ拍子っていうんですか。平井 ええ。「日本語」がそうでしょう。一字目と二文字目がくっつきますよね。謡曲ではコメるといって、頭に小さな休止符をつけたように、「これは、とうたいます。一字目を大きくならぶようにはうたいませぬ。」

田村 それは普通の日本語の会話の中にもあるということでしょうか。平井 あなたも無意識にやっていますよ。「ぼく」とおっしゃつたでしょう。英語やドイツ語のように頭に強拍が来ないんです。今学校の音楽では強弱強弱で教えているでしょう。日本語は違うんです。日本音楽も違うんですが、学校の唱歌のリズムのように等うたも強弱のリズムに置換えられちゃうんですよ。

田村 そのことは大問題で音楽の原点に係ることですね。

平井 そうなんです。日本語の言語学的な問題ということが民俗音楽の基本になるべきものなのに、日本では全然無視されています。

田村 明治時代に、そういう事も深く考えずに西洋崇拜ということから一気に移入してしまつた。

平井 政治とか科学とかが優れているからといって、文化の問題まで安易に移入してしまつた。

日本語の発音を変えるベルカント唱法。

田村 西洋音楽のベルカント唱法の移入も日本語の発声に大きな影響を与えましたね。

平井 発声と発音が一緒になつてこしばの発声になる訳でしょう。声明の場合にはインドの発声の影響を受けていても日本語の発音なんです。西洋式の舌を奥に引いたり上に丸めたりする発音はしていないんです。舌の位置が変わると口の中の形も変わりますね。舌をうしろに引けば「き」となるけれど、舌をそのままの位置で歌うから「ア」はあくまでも「ア」なんです。ところがベ

ルカントが入つて来ると日本語の発音では出ないから日本語の発音は駄目だという発想までいつちやつて、日本語の発音をヨーロッパ風の発音に変える訳ですね。日本語を変えちやつたんです。

そういう音楽教育を受けてきた人たちが筆曲界などの大半を占めていらっしゃるんです。

田村 なるほど、筆曲界にまで大きな影響を及ぼしているんですね。

何語でもない「ア」は存在しない。

平井 二十数年前に言語音声学という会議で「邦楽の発声と発声について」と題する研究発表会があった。大勢いる出席者の中のある学者が講師に「ところで、どういふ発音で毎日の発声訓練をされていますか」と質問をした。講師は「ア」だと答えた。質問者は再び「何語の「ア」ですか」とたずねた。「何語でもありません。ただの「ア」です」と講師は答えた。私もそう思った。しかし学者は「何語でもない「ア」は存在しません。日本語の「ア」ですか、イタリア語の「ア」ですか、ドイツ語の「ア」ですか」とたずねた。私はびつくりした。「ア」といふのは万国共通と思つていたからです。講師はしばらく考えてから「イタリア語の「ア」です」と答えた。私はその時、本場に音がするぐらいに「ああ」と場内の緊張が溶けたのを覚えています。その事があつて以来、私は日本語の事を考えるようになったんです。

対

BIG

田村拓男

五線譜も日本語の記号として受けとる。

田村 世界にはいろんな音楽がありますが、五線譜はやはり近世ヨーロッパ音楽の様式と密接に結びついたもので、優れたものには違いないが、まだまだ欠陥もあるわけで、これを



西洋音楽のベルカント唱法の移入も日本語の発声に大きな影響を与えましたね。

田村拓男氏

そつくり邦楽に当てはめようとするば無理が出てくる。
平井 私違うと思うの。そう考えたら不自由だし、拝借したっていい訳ですよ。もしそうだとしたらローマ字で日本語を書くことは絶対に許されないことになりませんよ。ローマ字で書いた日本語を日本人が読んだら、誤りなく日本語で読むでしょ。でも外国人が読むと自分たちが知っている英語なりフランス語なりドイツ語なりの感覚で読む……。これは日本語とはほど遠いものです。楽譜と文字とは同じでしょ。ある意味では

楽譜はもつと的確なんです。文字には高低、アクセントはないけれど、楽譜にはつけられますよ。私は洋楽は知らないが日本語音楽を知っていますから、日本語音楽の感覚で五線譜を見るわけです。つまり楽譜を読む人がどういう音楽をどれくらい知っているかによって、受けとり方が全然違ってくると思うんです。だから日本語音楽を本当によく知っている人間が五線譜をみれば、日本語音楽の感覚で日本語音楽として受けとりますから、私は日本語音楽は五線譜には書けない、という考えかたには絶対反対なんです。
田村 私は洋楽を勉強して来ましてので洋楽を通して音楽を見、楽譜絶対視的な考えを植えつけられたと思います。楽譜に書いてある音程・リズム・強弱などは絶対的なものだし、八分音符も等間隔でなければならぬ、裝飾音やこぶしも楽譜に書いてない限りやっつけはけない訳です。その点ジャズのブレイヤーが自由奔放にアドリブ演奏をするのを見て羨ましく思ったこともあり。先日の先生のリサイタルで歌われたご自身の作品を楽譜で拝見しますと、四分音符や八分音符の易しい音符で書いてありますが、実際に歌われる場合には、こぶしが頻繁にはいったり、音が微妙にずれたりしてますよ。その先生の歌われた通りを牧野由多可先生が採譜された楽譜があつて、比較してみると面白いです。先生も自由に発想していらっしやるなという感じが。本来、音楽が先

にあつて楽譜は後からついてくるもので、あくまでも便宜的なものである筈なんです。平井 A・B・Cが英語としてではなくA・B・C一つ一つが別なんだという感覚で受けとります。それが英語になればシェイクスピアであつたりして動かすことの出来ないものになるけれど、A・B・C単品として使うと「ア」であつたり「バ」であつたり、日本語に化ける訳です。五線譜にたいしても洋楽とは関係なく、日本語音楽の記号として受けとれる訳で、ごく素朴なんです。
日本では邦楽のうたえない音楽教育をしている。平井 高木豊樹様という有名な名人が明治のはじめ、衰微していく富本節を何とか挽回したいと、音楽取調掛（芸大の前身）の生徒になりましたが、ドレミファと歌つても邦楽的なアヤがついてしまふ。若造の先生たちがいくらとこいでも、棒みないな声は出せない……。出したくなかつたのかも……。いたましい話さね、と町田佳生先生が話して下さいました……。三十年前、リサイタルで印度の唄をうたうことになって、タゴール音楽院を卒業した印度の歌手の指導をうけました。印度語でサリガマパダニサとドレミファを唄うんですが、その音階を印度のうたのような技巧をつけて、そのまま印度のうたのようにやります。日本でこんなことをしたら叱られちゃうと思



ました。日本では邦楽のうたえない音楽教育をしているんです。百年も……。田村 日本にはアイヌの種族もありますが、実際には単一民族です。その事による根性のなさがあるのではないのでしょうか。平井 民族と民族との軋轢や圧迫、恐ろしさ、つらさといったものを体験していないので、平気で捨てられるのね。自分から植民地化してしまふ。民族的な観念が稀薄すぎるのよ。田村 イスラエルとヨルダンの宗教戦争は何千年か昔のことをいまだやり合っているわけでしょう。それだけの持久力・根性は日本人にはない。（話が多岐に及び全部を報告できないことが残念です）

現代邦楽事情

田中家情報 — その4 —

邦楽ジャーナル編集長 田中 隆文

前回は昨年五月から十月にかけての動きを中心に書いたが、その後、邦楽教育の問題に関して一つの大きな動きがおこった。今回はそのことを中心に書いてみたい。

「邦楽教育を推進する会」の誕生

ご存知のように現在、十年に一回の学習指導要領改定作業が文部省で進められている。最終決定は今秋告示され、それが現場に移行されるのは別表の通りだ。

洋楽偏重の音楽教育に疑問を投げける「東京子ども邦楽合奏団」の主宰者・荻原芳男氏（元小学校教諭）は、邦楽普及の鍵は学校教育にあるという信念から、今度の学習指導要領改定時に、邦楽分野を充実する項目を入れることこそ、最も重大、かつ根本的問題解決策として、各方面訴願行動を起こした。

氏はマスコミを利用して世論を動かすことを考え、昨年七月、朝日新聞に「教育改革担当者よ、教育の中正を標榜するなら、音の差別、偏向を是正し、日本の音、特に和楽器による新しい音楽活動が展開できるように配慮していただきたい」という一文を掲載した。これに続く一般から

の賛同意見も八月に二本掲載された。しかし、これだけではちがちなと判断し、直接個人々が文部省の担当係官に訴えてほしい旨と、この運動に賛同してほしい旨を、邦楽界の各種団体や著名演奏家呼びかけた。そこに寄せられたのは、邦楽のジャンルを超えて、演奏家や協会、邦楽器業界、出版社、学者、教育関係者など、氏も予想外というほど多くの人の名前が寄せられた。

そこで、寄せられた名前を基に、この運動を組織化して文部省にぶつけようと、十一月、賛同者の一部が集まり、会の発足に向けて話し合いがもたれるようになった。

そんな中、十二月、教育課程審議会の最終答申が出された。それには日本の文化後進国ぶりをうらづけるかの如く、中学二年の音楽授業二時間が一時間に減らされるなど、厳しいものだった。この答申を受けて今秋最終決定を下す学習指導要領作成協力者会議に力をぶつけるべく、一月十七日、多くの賛同者がこまばエミナースに集い、設立総会が開催された。「邦楽教育を推進する会」が発足した。

ここで趣意書が採択され、百万人目標の署名運動をおこなうことが決定

された。「音楽教育における邦楽分野を充実するための要望書」は、ただちに協力者会議と中島文部大臣に直接手渡された。

会の運動は発足と同時に盛り上がりを見せた。署名運動は全国各地で展開され、また大会報も作られ、全国の小・中学校関係に配られた。二月二十五日には、「日本の音を子どもたちへ」と題する一大イベントが国学院大学ホールで行われ、NHKの山川静夫アナウンサーが講演し、著名演奏家が邦楽器を紹介して邦楽のすばらしさを訴えた。

四月から五月にかけて、会の運動が、新聞・テレビ・ラジオで大きく取り上げられる中、五月二十五日、「邦推会」の代表三人（荻原芳男・田島佳子・田村祐男）と文部省の音楽担当官三人の話し合いがもたれた。文部省側の回答は、できる範囲で進めてみるという言葉の、「音楽理論が確立している洋楽を通して、他の音楽を理解させ、音楽観を拡大させたい」と誠意あるものではなかった。しかし、国の音楽政策に非常に強い力を及ぼす音楽議員連盟（国会議員九十三名の超党派の院内団体）事務局長・青木正久衆議院議員）の支持を取りつけているため、今後の動

きが目される。現在集まっている約三十万人の署名簿は、六月中に文部大臣に渡され、陳情することが予定されている。いささつはこの通りだが、邦楽界がこの問題をきっかけに、ジャンルを超えて、また草の根レベルで一つの目標に集まったというのは画期的な出来事だろう。この運動の盛り上がりを持続させていくことが今後の課題だ。荻原氏のまいた一粒の種を大輪として咲かせるまでは、音の理解・協力という肥料を減らすことがあつてはならない。

若手の台頭

最近の演奏会を見ていると、一つ目立った傾向がうかがえる。若手演奏家たちが、楽器商や出版社の呼びかけで、あるいは自身で、今までにない独特の企画を持って会を催したことが、

「若手に発表の場を」ということで立ち上がったのは、まず邦楽ジャーナル主催の「風が吹く夜（5/31）」これは尺八の主体性の確立と、実力があってもなかなか発表の場を持ってない若手尺八家に焦点を当てたもので、当日は流派を超えて集まった十人の尺八家たちが入り乱れてオリジ

ナルを披露した。チケットの販売方法も、邦楽界の慣例である出演者のノルマ制をやめて、すべて当日精算方式をとったが、入りは上々で、逆に義理で来た人がいなかっただけに会は盛り上がった。

若手尺八家の会では、芸大尺八科卒業生（都山流）による会がある（6/8）芸大尺八科は昨年、設立十周年を迎え、それを機に一月、琴古流卒業生の会が行われたが、これはそれに続くもの。七月半ばに両流合わせた会が行われるが、この三つの演奏会はいずれも第一回目となる。

尺八の主体性を確立しようということでは、前号にも少し紹介したが、横山勝也の「国際尺八研修館」が四月オープンした。

六月は尺八の会は他にも、集団サロンコンサート（6/3）、東京尺八合奏団（6/7）、山本邦山（6/17）、尺八1979（6/24）、イーストイリュージョン（6/28）と、多く見られるが、これは珍しいこととて前例がないと思う。

福岡の出版社・大日本家庭音楽会は、若手を育成することが邦楽界に課せられた最大の急務という考えから、当地で「古典研究演奏会」を開く（6/12）。同じように、東京では

現代邦楽曲の……

尺八譜

尺八愛好家のために、現代邦楽の都山譜

- 三木 稔 ソネットⅠ 400円
- 三木 稔 ソネットⅡ(七夕の曲) 400円
- 三木 稔 ソネットⅢ(山千歳)
- 三木 稔 ソネットⅣ 500円
- 三木 稔 ソネットⅤ(金蘭賦) 250円
- 長沢勝俊 若竹の賦 850円
- 長沢勝俊 有明の月 750円
- 長沢勝俊 飛 翔 400円
- 長沢勝俊 詩 曲 400円
- 東松明広 こ ころ 650円

以下、多数準備中、順次刊行予定

●誠和銘尺八も各種取りそろえております。

誠和 有限会社 誠和音芸

〒156 東京都世田谷区福3-18-18 電話03-420-0483

笥山銘尺八

琴古、都山各寸美麗仕上
特製品煤竹も各寸揃います。

木村 笥山

〒379-16 群馬県利根郡水上町谷川437

TEL.0278-72-4108

教育内容改定のスケジュール

62年12月 答	63年 申	64年 年	65年 年	66年 年	67年 年	68年 年	69年 年
幼稚園	学	移	実	教	実	実	実
小学校	学	移					
中学校	学	移					
高校							

字は学習指導要領 幼稚園は教育要領
移は移行措置 教は教科書採択 実は実施

新人に発表の場を持ってもらおうと、企画室・日本の藝が「三曲みなづき金」を開く(6/17)。
若手の楽器商・吉田岩雄は、実力はあるが、あまり目立たない男性の地歌・箏曲家を東京・大阪から集めて、かりがねコンサートを両地で開く(6/30)。男だけによる三曲の会というのはおそらく初めてだろう。このように若手を起用した会を催すことは、邦楽発展のための大いなる力になるに違いない。

第九回松尾芸能賞 特別賞に日本音楽集団

財団法人松尾芸能振興財団(理事長・松尾波徳江)による第九回松尾芸能賞が決定し、三月二十九日、東京ヒルトン・インターナショナルにおいて盛大に授賞式が行なわれた。
日本音楽集団は「特別賞」に選ばれたが、推薦理由は「(前略)すでに百回を越す定期演奏会に加えて、欧米およびアジアへの演奏旅行や、外国作曲家との交流を含め、全世界的な規模の活動を行っている」ことであつた。
他の受賞者は次の通り
■大賞/水谷良江 ■優秀賞/豊竹昌大夫/吉村雄輝/浅野梅若 ■特別賞/岡本文弥 ■新人賞/坂東橋太郎



邦楽器全般

わらびみや楽器店

〒598

泉佐野市栄町6~11

TEL.0724(63) 1246

日本音楽集団定期演奏会から

第102回

長尾 一雄

日本音楽集団の第一〇二回定期は、二つの朗読つきの曲目で占められた。ひとつは福垣足穂の童話から大橋喜一が脚色し内田とも子が作曲した「ほうきぼしとチョコレート」、もうひとつは米倉齊加年の童話に秋岸寛久が作曲した「多毛留」である。

ひとつはどんな変異でも人をだまして作ることでできる少年が「チョコレートの中に入る」といういたずらから抜け出すことができなくなつて自爆する話。ひとつは美しく生活していた鳥の一家に漂着者が来て、一家の母の身もとがわかれると共に国境意識がこの一家を離散させるという話。あえてそれらから「晩のテーマ」を抽出するという催してはないけれども、それぞれの台本においてテーマは明確に存在して居り、作曲家はそのテーマからのメッセージを伝えることを課された。

「多毛留」にはもつと神話的な深さを感じさせる慟哭がほしかった。しかし二つの曲を聞き終って私が感じた小さな満足感、ここに私の要求した条件にすくなくとも向かおうとする要因が認められたことによる。

内田とも子と秋岸寛久それぞれの作曲傾向には非常に差異があつて、それぞれ異質の個性を持つ作曲家たちだが、共通しているのは邦楽器に対するコンプレックスを持たないという点であろう。彼等にとって邦楽器とは特殊な何かでもなく馴染切つたなにかでもない。洋楽のオーケストラの楽器と同じように、「目の前にある」楽器としてそれを使っている。このような作曲家たちが日本音楽集団の身近かに現われたという事は、邦楽器によるオーケストラ表現を追求した集団創立者たちの教育活動の成果であるとも言えるだろう。「日本楽器のあらあらしさ」と三木稔は創立当時となえたのだが、内田や秋岸はそれよりは一種インテイメイトな熟しかたによつて何ものかを捉えようとしている。そこには邦楽器の音



「多毛留」を語る米倉齊加年一第一夜



「ほうきぼしとチョコレート」一第一夜

第103回

富樫 康

標記の演奏会をきく。

秋岸寛久作曲の三味線三重奏曲《冥煌》は細樟、中樟、太樟(太田幸子、工藤哲子、田中悠美子)と三つの三味線を使つての三重奏であるが、正面切つての構えた姿勢にも拘らず、手応えはそれほどでもなかった。前半は決さを表現しようとしたが不十分だったし、後半はリズムカールで華やかな気分の曲だが、単調さは覆いがたい。

ジェームス・カウドリイ作曲《粉ひき池の空に雲は悠々とたなびく空の雲を想わせる尺八群(二橋貞真ら四人)のゆらめき。第一(藤崎重康ら二人)は粉ひき小屋のつもりであらうが、朗々とした笛の音。すべてがのんびりと自然を謳歌している情景である。楽器は日本でも、西洋の自然に当てはまる心象風景といえる。

別の地平を探ろうとしたものごとく思える。解説では光降る星への抒情とある。成程この場合の事は、それぞれが個々として立脚しているのとは違つて、集塊としての争群が、総体的な群団として、星の群れのように壮大な光景を現出していることがうなづける。そしてその個が、ロマンを湛えた、甘美なうごめきをしているようにもみえる。後半はそのような夢物語でなく、星の内部活動の営みだそうであるが、これは争音楽として表現するには、余りにも荷が重すぎ、障壁に突き当たつたようにみえるが、或いはもつと気楽な気分できくべきだろうか。

牧野由多可の《仲秋詩抄》は、始め尺八と十七絃(素川欣也、内藤洋子)の投入で厳肅に始まるが、琵琶(半田淳子)に受けつがれると、それが主役となつて劇的な展開をみせる。しかし十七絃も尺八もそれぞれ重要な役割を担い、仲秋の詩を奏でる。それは恰も、昔武人が厳肅な気持で、自然の中に己を置いて、芸術的境地に没入することを受したような楽曲といえる。二つの楽

琴・三絃一式

株式会社 琴の長澤

京都・中京区四条旧御前通り上ル
TEL 〇七五・八二一・一三四五

楽がムード化してしまいかもし
れぬ限りない危険もあるが、邦
楽器が気やすい立場からわれわ
れのための音楽を奏してくれる
だろうという限りない期待もあ
る。「ほうきぼし」の若い集団々員



〈多毛留〉を語る日色ともよ一第2夜

たちのお芝居や「多毛留」の、
私の聞いた日は日色ともよの朗
読も感銘深かったが、私には、
邦楽器が私と同じ地平で目を利
いたという事実が一番印象深か
った。



〈ほうきぼしとチョコレート〉一第1夜

◇優れた技術で日本の音をおとどける◇

北 国 の 秀 作

都山流 …… 沢山銘 尺八
琴古流 …… 沢仙銘

尾崎尺八工房

☎(011)582-8119

〒005 札幌市南区澄川4条9丁目4-10
(地下鉄南北線自衛隊前駅下車5分)

器が展開するドラマは仲々追力
があり、魅きつけるものがあっ
た。
新実徳英の〈幽寂の舞〉は、
尺八・胡弓・三絃(二橋)・蛙地
慶司、袁田司郎、箏四(吉村、
滝田、安武、内藤)と計七人の
編成は色彩感が大きい。音色の
他に曲想が、幽幻、哀愁、しか
も華麗といった変化に富んでお
り、そのうえ短調の主題が端的
で明確なもの、楽曲を身近なも
のにしている。新実作品の中で
も成功したものの一つである。
(4月25日、パリオホール)



ジェームス・カウドリー作曲 〈粉ひき池の空に雲〉

小さな空間 大きな出会い

工藤 哲子

— サロンコンサートレポート Vol.3 —

日本音楽集団と後援会・ニッポニアメイツ。共催のサロンコンサートも、毎月回を重ねた二年が過ぎ、レポートも第三弾となった。

前レポート以降のプログラムは次の通りである。

Na 16 筆双重 NAOKO & TOS

HIKO (10/2)

Na 17 十七絃のうた (11/9)

Na 18 長沢勝俊特集 (12/21)

Na 19 めったに聴けないコンサート (88・1/14)

Na 20 若き演奏者たち (2/15)

Na 21 胡弓の響き (5/20)

今年最初のサロンコンサートは、音楽集団事務局長奈良義寛の企画構成。多くの団員が参加。集団のレポートリリーを十一月までの音の歴史に仕立て、団員自身の本領を発揮するばかりでなく、団内でもあまり知られていない演奏者の技量を発表していた。本当に、めったに聴けないコンサートであった。

わかりやすい身近なテーマに添った選曲は、聴き手自身の感覚を自由にし、曲のイメージを広げ、印象づけ易くするのではないかと思った。聴衆と演奏者、サロンコンサートという事が良く意識されたコンサートであった。

Na 21 胡弓の響きは駐地慶司の企画構成。胡弓という楽器の特性、魅力を良く見せてくれたコンサートであった。古楽器ヴィオラ・ダ・ガンバとの対比、合奏は、意外な共通点を知ることが出来、興味深かった。

ただ、調絃に時間がかかり過ぎること(胡弓やガンバとかの、楽器としてのデリケートさを知らしめることにはなったが)が気になった。

順序は前後するが昨年暮の「長沢勝俊特集」は若手が中心に構成、演奏した。一人の作曲家の作品に焦点を絞ることで、様々な楽器に対する作曲家の姿勢が聴け、長沢作品の魅力が改めて確認できたと思う。若手演奏者の意欲に期待したい。

クリスマスに近いこともあり、演奏後、聴衆と演奏者との楽しい交流会もあった。

顔で勝負!?!

私事ながら、ゴールデンウィークに、仙台市・長春市・友好都市八周年記念の文化交流団の一員として中国を旅してきた。長春市における演奏会、交流会等様々な演奏の場を通して最も印象深かったことは、舞台の上での子供達の笑顔だった。

中国では、学校の課外活動の一つ



ほうげん抄

疑惑の集団

特別取材班

「ロスのニューオータニに滞在中の三浦氏に最初の電話を入れたのは、正午に近い頃でした」(日本音楽集団・N氏)

文化庁の派遣で全米を公演中の日本音楽集団は、アンアーバー、デトロイト、ニューヨークを席巻し、セントルイスでも絶好調、ロサンゼルス、ハワイへと快進撃の歩を進める途中であった。が、しかし、好事魔多しを絵に書いた様な事件が起きるのである。

三月十一日、グループが乗る苦のセントルイス発十一時三十五分ロス行TWA91便は、搭乗間際になつて一時間の延発となつた。

「まあ飛行機の場合、この程度の事はさらだからね」(事情通)

N氏もそう思ったし、冒頭の電話の相手であるミュージック・フロム・ジャパンの三浦尚之氏も、特に不安を抱くものではなかった。

「ところが航空会社のインフォメーションというやつがあてにならなくてね。一時間が三時間、三時間が六時間なんてことも平気ですからね」(前出の事情通)

結果はまさにその通り。他の便に空席はなく、機体修理が最終的に不能となつた91便は、午後七時近くになってようやく代替機で飛んだのである。

として、個々の得意な分野（スポーツ、芸術等）で子供達の能力を育て高めているという。そこで、少年宮（彼らが練習かつ発表している所）で交流会が催された。日本側からは、伝統楽器紹介ということで、箏、三絃、尺八の演奏があった。

舞台の袖では普通の子供達が、ステキな笑顔でステージに上り、演奏し踊っていた。私にとって、あの笑顔は、何が始まるだろうという開幕前の緊張感を取り除き、素直な気持ちで演奏を聴き、拍手を贈らせてくれたと思う。つまり、発展させること

演奏するという事は、心に湧き起る思いを表情を含め体で表わす事であることと、子供達から改めて教えられたようである。

サロンコンサートでも、演奏者の様々思いが表現されてきている。気に入った写真を数枚載せてみることにする。演奏者の方々には、より一層の表現追求を、そして、この記事をお読みの方々には、より身近に演奏者の表現を感じられるサロンコンサートにお出かけいただくことをお願いしたい。

日本音楽集団 1987年11月、1988年8月の主な活動記録

- 11月9日(月)・10日(火) 中川市立学校会館
- 11月13日(金) 天理高等学校音楽会
- 11月18日(水) 京都府立音楽会
- 11月19日(木) 京都府立音楽会
- 11月20日(金) 京都府立音楽会
- 11月21日(土) 京都府立音楽会
- 11月22日(日) 京都府立音楽会
- 11月23日(月) 京都府立音楽会
- 11月24日(火) 京都府立音楽会
- 11月25日(水) 京都府立音楽会
- 11月26日(木) 京都府立音楽会
- 11月27日(金) 京都府立音楽会
- 11月28日(土) 京都府立音楽会
- 11月29日(日) 京都府立音楽会
- 11月30日(月) 京都府立音楽会
- 12月1日(火) 京都府立音楽会
- 12月2日(水) 京都府立音楽会
- 12月3日(木) 京都府立音楽会
- 12月4日(金) 京都府立音楽会
- 12月5日(土) 京都府立音楽会
- 12月6日(日) 京都府立音楽会
- 12月7日(月) 京都府立音楽会
- 12月8日(火) 京都府立音楽会
- 12月9日(水) 京都府立音楽会
- 12月10日(木) 京都府立音楽会
- 12月11日(金) 京都府立音楽会
- 12月12日(土) 京都府立音楽会
- 12月13日(日) 京都府立音楽会
- 12月14日(月) 京都府立音楽会
- 12月15日(火) 京都府立音楽会
- 12月16日(水) 京都府立音楽会
- 12月17日(木) 京都府立音楽会
- 12月18日(金) 京都府立音楽会
- 12月19日(土) 京都府立音楽会
- 12月20日(日) 京都府立音楽会
- 12月21日(月) 京都府立音楽会
- 12月22日(火) 京都府立音楽会
- 12月23日(水) 京都府立音楽会
- 12月24日(木) 京都府立音楽会
- 12月25日(金) 京都府立音楽会
- 12月26日(土) 京都府立音楽会
- 12月27日(日) 京都府立音楽会
- 12月28日(月) 京都府立音楽会
- 12月29日(火) 京都府立音楽会
- 12月30日(水) 京都府立音楽会
- 12月31日(木) 京都府立音楽会

日本音楽集団及び団員等の今後の予定

- 6月24日(金) 田原市立学校会館
- 6月25日(土) 田原市立学校会館
- 6月26日(日) 田原市立学校会館
- 6月27日(月) 田原市立学校会館
- 6月28日(火) 田原市立学校会館
- 6月29日(水) 田原市立学校会館
- 6月30日(木) 田原市立学校会館
- 7月1日(金) 田原市立学校会館
- 7月2日(土) 田原市立学校会館
- 7月3日(日) 田原市立学校会館
- 7月4日(月) 田原市立学校会館
- 7月5日(火) 田原市立学校会館
- 7月6日(水) 田原市立学校会館
- 7月7日(木) 田原市立学校会館
- 7月8日(金) 田原市立学校会館
- 7月9日(土) 田原市立学校会館
- 7月10日(日) 田原市立学校会館
- 7月11日(月) 田原市立学校会館
- 7月12日(火) 田原市立学校会館
- 7月13日(水) 田原市立学校会館
- 7月14日(木) 田原市立学校会館
- 7月15日(金) 田原市立学校会館
- 7月16日(土) 田原市立学校会館
- 7月17日(日) 田原市立学校会館
- 7月18日(月) 田原市立学校会館
- 7月19日(火) 田原市立学校会館
- 7月20日(水) 田原市立学校会館
- 7月21日(木) 田原市立学校会館
- 7月22日(金) 田原市立学校会館
- 7月23日(土) 田原市立学校会館
- 7月24日(日) 田原市立学校会館
- 7月25日(月) 田原市立学校会館
- 7月26日(火) 田原市立学校会館
- 7月27日(水) 田原市立学校会館
- 7月28日(木) 田原市立学校会館
- 7月29日(金) 田原市立学校会館
- 7月30日(土) 田原市立学校会館
- 7月31日(日) 田原市立学校会館
- 8月1日(月) 田原市立学校会館
- 8月2日(火) 田原市立学校会館
- 8月3日(水) 田原市立学校会館
- 8月4日(木) 田原市立学校会館
- 8月5日(金) 田原市立学校会館
- 8月6日(土) 田原市立学校会館
- 8月7日(日) 田原市立学校会館
- 8月8日(月) 田原市立学校会館
- 8月9日(火) 田原市立学校会館
- 8月10日(水) 田原市立学校会館
- 8月11日(木) 田原市立学校会館
- 8月12日(金) 田原市立学校会館
- 8月13日(土) 田原市立学校会館
- 8月14日(日) 田原市立学校会館
- 8月15日(月) 田原市立学校会館
- 8月16日(火) 田原市立学校会館
- 8月17日(水) 田原市立学校会館
- 8月18日(木) 田原市立学校会館
- 8月19日(金) 田原市立学校会館
- 8月20日(土) 田原市立学校会館
- 8月21日(日) 田原市立学校会館
- 8月22日(月) 田原市立学校会館
- 8月23日(火) 田原市立学校会館
- 8月24日(水) 田原市立学校会館
- 8月25日(木) 田原市立学校会館
- 8月26日(金) 田原市立学校会館
- 8月27日(土) 田原市立学校会館
- 8月28日(日) 田原市立学校会館
- 8月29日(月) 田原市立学校会館
- 8月30日(火) 田原市立学校会館
- 8月31日(水) 田原市立学校会館
- 9月1日(木) 田原市立学校会館
- 9月2日(金) 田原市立学校会館
- 9月3日(土) 田原市立学校会館
- 9月4日(日) 田原市立学校会館
- 9月5日(月) 田原市立学校会館
- 9月6日(火) 田原市立学校会館
- 9月7日(水) 田原市立学校会館
- 9月8日(木) 田原市立学校会館
- 9月9日(金) 田原市立学校会館
- 9月10日(土) 田原市立学校会館
- 9月11日(日) 田原市立学校会館
- 9月12日(月) 田原市立学校会館
- 9月13日(火) 田原市立学校会館
- 9月14日(水) 田原市立学校会館
- 9月15日(木) 田原市立学校会館
- 9月16日(金) 田原市立学校会館
- 9月17日(土) 田原市立学校会館
- 9月18日(日) 田原市立学校会館
- 9月19日(月) 田原市立学校会館
- 9月20日(火) 田原市立学校会館
- 9月21日(水) 田原市立学校会館
- 9月22日(木) 田原市立学校会館
- 9月23日(金) 田原市立学校会館
- 9月24日(土) 田原市立学校会館
- 9月25日(日) 田原市立学校会館
- 9月26日(月) 田原市立学校会館
- 9月27日(火) 田原市立学校会館
- 9月28日(水) 田原市立学校会館
- 9月29日(木) 田原市立学校会館
- 9月30日(金) 田原市立学校会館
- 9月31日(土) 田原市立学校会館
- 10月1日(日) 田原市立学校会館
- 10月2日(月) 田原市立学校会館
- 10月3日(火) 田原市立学校会館
- 10月4日(水) 田原市立学校会館
- 10月5日(木) 田原市立学校会館
- 10月6日(金) 田原市立学校会館
- 10月7日(土) 田原市立学校会館
- 10月8日(日) 田原市立学校会館
- 10月9日(月) 田原市立学校会館
- 10月10日(火) 田原市立学校会館
- 10月11日(水) 田原市立学校会館
- 10月12日(木) 田原市立学校会館
- 10月13日(金) 田原市立学校会館
- 10月14日(土) 田原市立学校会館
- 10月15日(日) 田原市立学校会館
- 10月16日(月) 田原市立学校会館
- 10月17日(火) 田原市立学校会館
- 10月18日(水) 田原市立学校会館
- 10月19日(木) 田原市立学校会館
- 10月20日(金) 田原市立学校会館
- 10月21日(土) 田原市立学校会館
- 10月22日(日) 田原市立学校会館
- 10月23日(月) 田原市立学校会館
- 10月24日(火) 田原市立学校会館
- 10月25日(水) 田原市立学校会館
- 10月26日(木) 田原市立学校会館
- 10月27日(金) 田原市立学校会館
- 10月28日(土) 田原市立学校会館
- 10月29日(日) 田原市立学校会館
- 10月30日(月) 田原市立学校会館
- 10月31日(火) 田原市立学校会館
- 11月1日(水) 田原市立学校会館
- 11月2日(木) 田原市立学校会館
- 11月3日(金) 田原市立学校会館
- 11月4日(土) 田原市立学校会館
- 11月5日(日) 田原市立学校会館
- 11月6日(月) 田原市立学校会館
- 11月7日(火) 田原市立学校会館
- 11月8日(水) 田原市立学校会館
- 11月9日(木) 田原市立学校会館
- 11月10日(金) 田原市立学校会館
- 11月11日(土) 田原市立学校会館
- 11月12日(日) 田原市立学校会館
- 11月13日(月) 田原市立学校会館
- 11月14日(火) 田原市立学校会館
- 11月15日(水) 田原市立学校会館
- 11月16日(木) 田原市立学校会館
- 11月17日(金) 田原市立学校会館
- 11月18日(土) 田原市立学校会館
- 11月19日(日) 田原市立学校会館
- 11月20日(月) 田原市立学校会館
- 11月21日(火) 田原市立学校会館
- 11月22日(水) 田原市立学校会館
- 11月23日(木) 田原市立学校会館
- 11月24日(金) 田原市立学校会館
- 11月25日(土) 田原市立学校会館
- 11月26日(日) 田原市立学校会館
- 11月27日(月) 田原市立学校会館
- 11月28日(火) 田原市立学校会館
- 11月29日(水) 田原市立学校会館
- 11月30日(木) 田原市立学校会館
- 11月31日(金) 田原市立学校会館
- 12月1日(土) 田原市立学校会館
- 12月2日(日) 田原市立学校会館
- 12月3日(月) 田原市立学校会館
- 12月4日(火) 田原市立学校会館
- 12月5日(水) 田原市立学校会館
- 12月6日(木) 田原市立学校会館
- 12月7日(金) 田原市立学校会館
- 12月8日(土) 田原市立学校会館
- 12月9日(日) 田原市立学校会館
- 12月10日(月) 田原市立学校会館
- 12月11日(火) 田原市立学校会館
- 12月12日(水) 田原市立学校会館
- 12月13日(木) 田原市立学校会館
- 12月14日(金) 田原市立学校会館
- 12月15日(土) 田原市立学校会館
- 12月16日(日) 田原市立学校会館
- 12月17日(月) 田原市立学校会館
- 12月18日(火) 田原市立学校会館
- 12月19日(水) 田原市立学校会館
- 12月20日(木) 田原市立学校会館
- 12月21日(金) 田原市立学校会館
- 12月22日(土) 田原市立学校会館
- 12月23日(日) 田原市立学校会館
- 12月24日(月) 田原市立学校会館
- 12月25日(火) 田原市立学校会館
- 12月26日(水) 田原市立学校会館
- 12月27日(木) 田原市立学校会館
- 12月28日(金) 田原市立学校会館
- 12月29日(土) 田原市立学校会館
- 12月30日(日) 田原市立学校会館
- 12月31日(月) 田原市立学校会館



機中、メンバーはくつろぐどころではない。特に女性陣は、到着後の時間を無駄にしないためにと一斉に化粧を始めるのであった。

「あたくし、事情を存じませんでしたからあれなんですけれど、それは壮観でしたわ。真面目な顔した百面相がずらりと七つも並んでるんですもの。(日本人乗客)」

到着後の行動は速かった。しかし、果してお客はいるのだろうか。ところがバスから降りて会場へと駆け出したその時、なんと、朗々とした尺八の音が響いてきたというのである。

「九時半頃だったかな、確かに私も聴きましたよ。あまり素晴らしいのでレコードだと思っていました。そうそう、関係ないかも知れませんが、裏通りに白いバンが停めてあったのを覚えてます。(たまたまその時間に通りがかったロス南水道局職員と名乗る男)」

屈指たる響きは琴古流の「鹿の連音」。今まさに月光をあげて姿をあらわすその人は……

翌日、その人物の姿はロスから消えたが、多くの証言で当のグループの一員でもある三橋貴風であったことが判明した。ラスベガスへ向かう途中、仲間の急場を知って出演を買って出たのである。お陰でお客は増えず、グループも無事公演を果たすことができたのである。

「そうですが、そうやってあの方は皆さんを救ったんですね。何だか十年前にテレビで観た、鳴門秘帖の法月弦之丞みたい。(その時の聴衆のひとり・日系人女性)」

尚、この事件に関してロス郡検事局は何も知らない。

(黒髪 記)

邦楽 ジャーナル

雑誌や電波に乗って情報が氾濫するご時世ですが、こと「邦楽」となると、その情報の入手は困難をさわめます。おそらく口コミとチラシに頼っているのが現実でしょう。コンサートに限らず、オーディションやコンクールの受け付け、合奏団の団員募集、邦楽器商組合の活動などもあまり知られていません。

この雑誌は尺八と箏の音楽を中心に、ナマの情報を全国から集めてビジュアルに提供します。

MONTHLY JAPANESE MUSIC NEWS INFORMATION MAGAZINE

▼きめ細かい確かな情報▲
 コンサート情報 / ライブ情報
 ラジオ・テレビ情報 / 団体情報 / 時事的情報
 ▼シリーズで追う身近な記事▲
 替入ルポ / 楽器の基礎知識 / 楽器造りの現場
 邦楽と教育界 / 今月の問題点 / クロスオーバー

毎月1日発売・6月号特集「文楽はおもしろい」!



A4判
 定価350円(送料60円)
 年間講読=4200円、
 半年講読=2100円(送料サービス)

発行 / 邦楽ジャーナル
 〒160 東京都新宿区高田馬場3-39-9
 グリーンハイツ202 ☎03-380-1329



邦楽商品券 舞鶴

日頃、邦楽ご愛好の皆様方のご要望にお応えし、
 日本の音と心をつなぐ邦楽器店独自の商品券が登場いたしました。
 邦楽に携わるお祝いや、
 感謝のご贈答など、幅広くご利用ください。

250店舗で

●日本全国でご利用いただける邦楽商品券●

「邦楽商品券舞鶴」は、北海道から九州まで全国に網羅されている約250店の取扱い店をご利用できます。
 お引き換え期限もなく、取扱い店の商品、技術料、サービス料などとしても便利なお引き換えができます。
 ※お求めは、各取扱い店でどうぞ。



〒561 豊中市服部本町5丁目5-6 TEL(06)863-0564

デザイン
永谷繁山

「つみたてクレジット」で
大きな安心と計画つみたて

積立クレジット
安心保障



※安田火災海上

積立家族傷害保険

新発売

健康はご家族の大きな財産。
だから備えが必要です。

- ※ 損害保険の安田火災はあなたの暮らしをワイドに補償致します。
- ※ あなたの保険設計は明和損害保険企画におまかせ下さい。

日本音楽集団指定損害保険代理店
明和損害保険企画

RM 小笠原 明男 オフィス ☎937-0547
安田火災海上保険㈱板橋支社 ☎962-7311

永い伝統と経験から創り出される
豊富な“止水の和楽器”



新発売
明鏡笛 (しの笛)
(正律管)
ベース三味線



しずいの
和楽器



止水の和楽器 発売元

明鏡楽器

〒130 東京都墨田区横川4-1-2 ☎(03)623-6349(代表)

創業・昭和8年

お琴・三味線の琴栄

●東海一の実績を誇る店



◇1階・店舗

- ◇三味線、尺八、舞扇、多数陳列
- ◇お琴、三味線、尺八の付属品、楽譜 多数取揃えてあります

◇2階・お琴展示場(ミニ舞台付)

- ◇お琴、箏、20絃琴、17絃琴と晝間に取揃えてあります
- ◇ミニ舞台でお琴を弾いて下さい

(お買い求め) クレジット販売をご利用下さいませ。(最高3000円)
(パンフレット) 無料送付致します。

箏

御琴・三味線専門
琴栄楽器店

代表・増田康壽

〒500 岐阜市河村九(大学病院前)
TEL (0582) 418260



尺八
露秋

西田露秋

〒794 今治市新谷甲 798-1

電話 (0898)48-1097・1257

日本の佳き

伝統と

ともに



●詳細カタログご進呈いたします。

歌舞伎座・国立劇場御用

能楽長唄用

太鼓・小鼓

創業文久元年／宮内庁御用達

株式会社 宮本卯之助商店

本店 ● 東京都台東区浅草六丁目一番十五号

〒111 電話(03)八七四一四一三一(代)

FAX(03)八七五一六六〇二

西浅草店 ● 東京都台東区西浅草二丁目一番一号

〒111 電話(03)八四四一四一四一(代)

銀座店 ● 東京都中央区銀座七〇八コリド―街

〒104 電話(03)五七二一六三二一(代)

応援します「邦楽現代」

和楽器専門店

老舗

KK金善楽器店

京都市東山区大和大路通り四條下ル二丁目亀田町五七

TEL 五六一一二九四〇 五四一―一〇九三

(075) 五二五一―一三七五(夜間)

和楽器専門店

Muramatsuya

SINCE 1807

- TOYAMA ●
- TAKAOKA ●
- KANAZAWA ●

代表 長沢 勝俊
副代表 田村 祐男
副代表 坂田 誠山
運営委員長 奈良 義寛(局長)
事務局 岩島 素子
監事 岩島 素子
マホーシメント協力
株式会社 ジャパン・アーツ

名譽団員 山田美善子

〈正団員〉

望月 太八(笛)
西川 澄平(笛)
高田 研八朗(尺八)
坂田 誠山(尺八)

三橋 貴風(尺八)
藤崎 重康(尺八・笛)
竹井 誠(尺八・笛)
米澤 浩(尺八)
基川 欣也(尺八)
畦地 廣司(胡弓・作曲)
野口美恵子(三味線)
太田 洋(三味線)
加藤 洋(三味線)
高田 研八朗(三味線)
田中 賢美子(三味線)
半田 淳子(三味線)
田原 昭子(三味線)
坂井 敏子(三味線・胡弓)
白根きぬ子(三味線)
吉村 七重(三味線)
花井はるみ(三味線・三味線)
宮越 圭子(三味線)

大村 玲子(三味線)
内藤 洋子(三味線)
滝田美智子(三味線)
鹿沢栄利子(三味線)
大島美穂子(三味線)
佐藤由香子(三味線)
尾崎 太一(打楽器)
野田 啓輔(打楽器)
高橋 明男(打楽器・指揮)
高橋 はるな(三味線)
細谷 一郎(打楽器)
田村 祐男(指揮・打楽器)
坂田 誠(指揮)
長沢 勝俊(作曲)
内出とも子(作曲)
中島 隆(美聲)

〈準団員〉

水谷 雅康(尺八)
水川 寿也(尺八)
工藤 哲子(三味線)
山田まゆ美(琵琶)
坂田 美子(琵琶)
佐藤 早美(三味線)
島崎 春美(三味線)
久東 寿子(三味線)
高橋 はるな(三味線)
坂井 智水(三味線)
安武由香理(三味線)
山田 明美(三味線)
前田 文男(打楽器)
望月太八之丞(打楽器)
秋岸 寛久(作曲)

協力団員 伊藤 悠一
地方在住団員 塚本 早苗
田嶋忠美子

〈賛助会員〉
(林みやこ編物)

滝沢 修 高島 邦子
野取 操寿 古川羽衣山
輪田 錦史 丹野井成寿

〈団友〉

青木 誠 芥沢 英雄 増田 睦美
秋浜 清史 高野 文子 三木 聡
荒谷 俊治 田嶋 直士 宮本 幸子
稲垣 隆史 田中 利光 元橋 康男
小田切清光 鶴野 和子 矢崎 明子
川崎 祥悦 戸井 昌造 柳家小三治
菊地 博子 藤倉 昌悦 横山 博也
楠 知子 藤倉 昌悦
鞍世 昭二 仲俣申吾男
難波 広行 中村 八大
佐藤 敏直 野口 鎮
芝 祐靖 広瀬 量平
清水 義昭 福田 輝久
杉浦 弘知 坂井 晴由
砂崎 知子 星 旭

デイヴィッド・ロバ
デイヴィッド・ヒューズ
ヘンリー・バーネット
ラニー・シエルダン
王 希樵
張 曉楓

〈日本音楽協会支部〉

関西支部 田嶋直士
山口支部 齊藤幸山
長野支部 佐藤幸山
山梨支部 柳見
長崎支部 牧山雅集
熊本支部 古川羽衣山
秋田支部 野口裕子

邦楽の会つばら事務局

編集後記

邦楽者が売れない、弟子が集まらないなど邦楽界の停滞が叫ばれて久しい。しかし音楽界では芸術祭も含めて邦楽家たちの活躍は相変わらず目覚ましい。感力を秘めたバイタリティーは学習指導要領改定に対する要望に当って三十万名を越す署名を集めた。邦楽教育を推進する会には邦楽人がこぞって協力することが大切だと思う。失敗すると二度と立ち上れないだろう。
「美恵子の三味線みてある記」は病氣療養のため休ませて頂きました。 編集部

邦楽現代 Pro Musica Nipponia 第20号

定価 五〇〇円

発行所 日本音楽集団

東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル202

電話 〇三三三七八(四七四)

発行責任者 田村祐男
印刷所 光社社

●本誌20号の広告掲載者御芳名

アイ・エム・エス、一穂、いずみや楽器、尾崎沢山、和家康音楽会出版部、秋金善、大村崇山、琴光堂和楽器店、琴楽堂書店、楽響の長澤、南誠和音楽、田中家、田辺楽器株式会社、水広真山、進出直秋、邦楽産品券興行、村松屋、宮本卯之助商店、明徳楽器、明和楽器保険企画、郵船航空サービス株式会社、機ワタ楽器、ティフエ楽器

◎待望の長沢作品を縦譜化 長沢勝俊作品集

No.1 飛騨によせる三つのバラード	800円	No.11 華協奏曲	700円	(尺八譜)	飛騨によせる三つのバラード	400円
No.2 まゆだまのうた	400円	No.12 雪三態	800円		まゆだまのうた	300円
No.3 合奏曲 六段	600円	No.13 北国奇談	900円		秋によせる三つの幻想曲	400円
No.4 春三題	600円	No.14 樹冠	700円		六邊星	300円
No.5 秋によせる三つの幻想曲	600円	No.15 胡春	500円		二つの田園詩	300円
No.6 華のしらべ	500円	No.16 合奏曲みだれ	700円		樹冠	300円
No.7 合奏曲 千鳥	500円	No.17 合奏曲八千代獅子	600円		胡春	400円
No.8 六邊星	400円	No.18 華四重奏曲	700円		四つの小品	400円
No.9 華三重奏曲	600円	No.19 四つの小品	700円			
No.10 二つの田園詩	500円					

(有) 家庭音楽会出版部 〒810 福岡市中央区大名1-3-41
☎(092)741-2458 傳真口座福岡8-5500

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL (792)8481



オリジナル立奏台

日本の音、その磨きぬかれたたびびき

歌謡曲から「春の海」まで!!

五線譜で楽に尺八が吹けます

尺八リコーダー

持ちやすい
吹きやすい
7孔ドレミ調
(学校教材に最適)



品番 2111
楓

標準価格
1.6尺C調管 ¥8,000=



品番 2117
洋紫檀

標準価格
1.6尺C調管 ¥12,000=

新発売!!

ジャズ、ポピュラー、クラシック、尺八本曲、古曲、唱歌、民謡、歌謡曲、詩吟等あらゆる分野の音楽を自由に奏でられます。

宮田耕八郎 監修

株ワダ楽器